



「えー、本日で、我が新紺屋しんこんやスポーツ少年団から五名の選手が卒団する。五名全員が、ほんとうによく頑張った！ 中学校に行っても、みんな、サッカーは続けるんだよね！ おまえらだったら、レギュラーになれるのも遠くはないと思う。まあ、最初は大変かもしれない。が！ 続けていけば、必ず認めてもらえるから、諦めるんじゃないぞ！ おまえらは、サッカーが好きでやっているんだってこと、絶対に忘れるな！ よおし、小学校生活最後の、五、六年混合対抗戦、やるぞ！ 人数あわせて監督とコーチも入る！ 本気で行くから、怪我をしないよう気合入れてけよ！」

「おーっ！」

小学校一年生から六年間続けたサッカースポーツ少年団

の卒団式が終わった。地区大会、県大会のビデオには、懐かしい場面がいっぱいあった。放課後の練習、土日の試合のビデオまで上映され、いろんなことが思い出されて、みんなの目が少しうるんでいた。

六年間、サッカーしかやってこなかったんじゃないか、と思うくらい、サッカーが好きな仲間だったのだ。

「くっそー。スポ少、楽しかったよな」

「幸せだった、って、こんな時いいのかな？」

「うん。幸せだったよー。ちよっと泣けてくる」

楽しい時を過ごしたとしみじみ思い出され、ひとりが泣き出すと、あちこちで、みんな声をあげて泣き出した。

「なんで泣いてんだろ、おれたち」

「知らねー。なんか泣けるんだもん。しょうがねえよー」